

表1-5 紀伊山地における山の神のケズリバナ習俗

地域	祭日	名称	製作				用途		文献		
			材の樹種	製作道具	組合せ	形状の特徴	詳細	形状認識			
奈良県											
1	川上村	瀬戸	11・7 1・7 6・7	シャチ・オコゼ	ヒノキ	ヨキ	紙で包む	角棒状	供え物の中にシャチというものがあ。角で七寸ほどの長さの木にうろこにあたる所をけずりつけて紙に包んで供える。説明で十分のみこめないので山の神の所へ行って探してみたが見つからなかった。ケズリカケでないかと思う(①)／(魚型の削りかけを紙で包んで見えないようにし、山道具の雛型などと共に供える。削りかけでウロコを表現する(今石調査)	魚	①調
		北和田	1・7 10・7	ヘイ	スギ	—	—	—	正月・10月の7日が祭日である。…正月の7日だけは、家毎にヘイを山の神に供える…このヘイは杉の木を同じ方向へ重ねて削り、最後を落とさないでつけておくもので、一般にいうケズリカケである	—	②
3	上北山村	西原	1・2	ケズリ花	ヒノキ・スギ	—	—	棒状 頭部切込	山の神祭は、一月二日のヤマグチ(山初め)に行なう…ヒノキかスギでケズリ花を作り、山の神に供える。一人で五本も十本もこしらえる者もいる ※図あり／⑩【資料】※所見:棒状で下から上に向かって削る。頭部に切り込みあり、ヒイラギが挟んである、下部はV字	—	③⑩
4		小椽	節分	オノメツキ・ヤクサシ・ヘイ	ヒノキ・スギ	—	柀・魚を挟む	平板状 頭部切込	年越しにヘイの先に鯛の頭をはさんで入口に立てるが、このヘイもケズリカケである(②※写真あり)／※⑤に図あり	—	②⑤調
5		白川	1・7	シデ・ケズリバナ・キリバナ・ヤクサシ	ヒノキ	ヨキ	2本1組 幣を付す	平板状	ケズリバナをあげる。ヤクサシともい、尖を二つに割って雑魚を挿んで供える(④)／山の神に(削り花)を供えた…(削り花)はシデと呼ぶのが一般的だという(⑥)／キリバナを二本つくって祠の両側へ立てかけてお供えした。男性のシンボルの意味があるという(今石調査)／⑩【資料】※所見:平板状で、下から上に向かって厚く削りかける。頭部は圭頭状で、ミズヒキでシメを結びつけてある。下部は角を落とす程度に削ってある	男根	④⑥⑩調
6			節分	(オノメツキ)	ヒノキ	ヨキ	柀・魚を挟む	平板状 頭部切込	節分の日にも、門口に(削り花)を二本さしておく習俗があった(同時に、この日はオノメツキを軒先にさしておく)(⑥)／小さいヒノキ(削り箸程度)をヨキなどで少し削りかけ、頭部には縦に割目をいれてヒイラギと魚をはさみ、根元は戸口に挿しやすく斜めに切った。昔は戸窓すべてに挿した(今石調査)	—	—
7	下北山村	上池原	11・7 1・7	ケズリバナ	—	—	—	—	祠内には大山祇大神のお札を祀り、沢山のケズリバナが供えてある	—	⑦
8		大瀬	11・7 1・7	カンザシ	—	—	—	—	霜月と正月の七日にはみな山仕事を休んでお参りし、女の神様だからとカンザシ(ケズリバナ)とヘノコ(チンボ)を供えて祝いをしてきた	カンザシ	⑦
9		下桑原	11・7 1・7	ケズリバナ	—	—	—	平板状	四・五十年前は山の神講があって、正月と霜月には山仕事をする人が祭り、お神酒・餅・蜜柑などを持ってまいり、ケズリバナを作って供えた	カンザシ	⑦
10		上桑原	11・7 ※	カンザシ	ヒノキ・スギ	薄い刃物	2本1組 魚を挟む	平板状 頭部切込	かつては正月7日も祀っていたが、今は11月7日だけで個人個人が、スギあるいはヒノキで作ったカンザシ(ケズリバナ)を持って朝早くからお詣りする。カンザシの上部に刻みを入れ、一對の片方にシャコあるいはサンマのシッポ、もう一方には頭を挟んで供える。ヘノコを供える人もいるがこれは昭和五十年頃まではなかった(⑤ ※図あり) 祠前に二十五-三十センチのケズリバナが五・六本みられる(⑦)／薄い刃物で押し出すように削った(今石調査)	カンザシ	⑤⑦調
11		池峰	11・7 1・7	ケズリバナ	—	—	—	—	モミの大木のもとに小祠を建てて祀っていた…ケズリバナが見られる	—	⑦
12		寺垣内	11・7	ケズリバナ	スギ	—	2本1組	平板状	大きなボタモチ、果物、お神酒などと共にケズリバナも供えた。2本1対で地面に挿す。昔は年寄りがこまめに作っていた。	—	調
13		浦向	11・7	ケズリバナ	ヒノキ	—	—	平板状	(小祠に)大小のケズリバナが納めてあった(⑦)／山の神は数尺の丈の丸太を男根に作ってある。霜月七日に酒・餅・ケズリバナ(この地方ではこれに関する言葉は聞かれない。)を持って参る(⑧)／※②に写真あり	—	②⑦⑧調
14	天川村	中谷	毎月	ケズリバナ	—	—	2本1組	—	古老の父の代までは、木をサカ(逆)に三段に削った一尺ばかりのケズリバナ(削掛)を毎月二本供えた	—	⑨
15		迫	11・7	ケズリバナ	ヒノキ	—	—	—	正月の祭はなかったが、霜月祭はした…この日は戸々にケズリバナを作って上げた。ケズリバナには檜が一番よく、長さは約一尺五寸。二か所か三か所をサカに削ってきれいに巻き上げて花のように仕上げた(⑨)／※⑩もほぼ同じ記述	—	⑨⑩

表1-5 紀伊山地における山の神のケズリバナ習俗2

地域	祭日	名称	製作		組合せ	形状の特徴	用途		形状認識	文献	
			材の樹種	製作道具			詳細				
十津川村	杉清 (清之原)	11・7	サカキ	ヒノキ	—	男根	棒状	サカキ(削掛)は1尺ぐらいのヒノキの棒を下からサカに段々に切り上げて削り片を残したまま、囊のような形に作る…山(トマリヤマ)に居る人たちは6日の夜にヨイマツリをする…直径5寸もある一寸恰好のよい〜ノコを作り、小屋の外の山の神の場所と決めた所へ、これを御神体として、サカキを立て、シメナワを張り、人夫衆の飲み食いする御馳走や酒を一応全部供えておいて、ショウヤがノリを上げ…その晩は全部タバって大盤振舞をする	—	⑪	
	旭	毎月7日	ケズリバナ	—	—	2本1組	—	家毎から米一合を集め、粉にし、これで作った餅と、ケズリバナを二本供へる	—	⑧	
	小井	—	ケズリバナ	(小径木)	—	—	2本1組	平板状	【取蔵資料】小径木を割って厚手の板を作り、頭部を三角形に削る。下方から上に向けて両側を幾重にも剥ぐ。剥いだものを上部に向けて丸みをつける。山の神を祭る際、両側に石等で地面に打ち込む(1979採集)	—	⑯
	大野	11・7 1・7	ケズリバナ	—	—	—	—	—	正月・霜月の七日にまつる。霜月の七日だけ、ダンゴとケズリバナを家毎に持って参る	—	⑧
	小森	12・7	ケズリバナ	スギ	—	—	2本1組	平板状	2本1対で、ちょうどサカキや鳥居のようなイメージで、山の神の祠前の地面に挿して供えた	※	調
	小原	—	ケズリバナ	—	—	—	2本1組	平板状 頭部切込	※詳細不明/⑯【資料】※所見:平板状の板を下から上に向かって削る。頭部に切り込みあり。下部はV字に削る/※⑤にも図あり	—	⑤⑰
	今西	—	ケズリバナ	—	—	—	—	—	作って山の神に供える	—	⑩
	高滝	11・7 1・7	ケズリバナ	—	—	—	—	—	木の小祠があり、扉もなくあければなしの中に古い朽ちかけたケズリバナ(巾2寸位、高さ4寸位)が1本納めてあり、前にシメナワを張った枯れたサカキが一对倒れている。他にケズリバナなし	—	⑩
	七色	11・7	ケズリバナ	ヒノキ	—	—	—	—	霜月7日に径4.5寸、高さ3尺位の木製のチンボを削って供えた。ほかにも小さいチンボが沢山あった。必ず絵で作ったケズリバナも供えた	—	⑩
		11・7	ケズリバナ	ヒノキ	—	—	—	—	ケズリバナ、チンボを供える人もあったが、ヂゲの人はしなかった	—	⑩
	榎原	11・7	ケズリバナ	スギ・ ハゼノキ	—	—	2本1組 魚を挟む	平板状 頭部切込	各戸2本ずつ供える。ケズリバナの材料は杉が主で、両側の削り片は七つにするのが正しいとは言いが、いい加減にやっている。この頭を一寸割ってこゝへ塩魚(サイレ)の頭と尾だけを挟んで立てる(⑯※図あり) 旧暦霜月7日に仕事を休み、ハゼの木でケズリバナを一对作って供える。その場合、一对の片方にはサイレ(サンマ)の頭、もう一方には尾をケズリバナの上部先端に挟む。…昔小屋掛けしていた頃は、小屋に棚を設けるかもしくは小屋のそばの木を選んで毎朝御飯を供え、山の神祭りの時にはケズリバナやポタモチを供える(⑤)	—	⑤⑩
	折立	11・7	けずり花	—	—	—	—	平板状	主ニ山仕事ヲスル人達ガ山神祠ニけずり花、小豆団子、ぼた餅ナドヲ作ッテ供ヘル ※図あり(けずりばな長サ1尺位、山神様ノ前へ供ヘル)	—	⑫
	東中	11・7	ケズリバナ	ヒノキ	—	—	—	—	昔はパンの山の神を祭るときは必ずケズリバナを供えた。ケズリバナは絵に限る。長さは不定だが平均1尺くらい…(上パンの山の神に)山商売をする者は土地の人でも、木で陽物を拵え、その両側にケズリバナをつけて供えた	—	⑩
	山手谷	山神祭	ケズリバナ	※	—	—	2本1組 魚を挟む	平板状 頭部切込	【取蔵資料】小径木を割って厚手の板を作り、頭部を三角形に削る。下方から上に向けて両側を幾重にも剥ぐ。剥いだものを上部に向けて丸みをつける。山の神を祭る際、両側に石等で地面に打ち込む(1987年採集)/※材は、キワダ・ハゼふたつの材が記してあり、どちらか不明。頭部に「魚等を挟む為の切れ目」があるとの注記あり	—	⑯
猿飼	11・7	ケズリバナ	ヒノキ	—	—	—	—	ケズリバナを上げる。ヒノキを使う。ヒノキでないとあれだけ綺麗に削れぬ	—	⑪	
平谷	11・7	削り花	—	—	—	—	平板状	※詳細不明 ※図あり	—	⑫	
那知合	11・7	ケズリカケ	—	—	—	—	—	祭は霜月7日…ケズリカケを供える人もある	—	⑩	
谷垣内	—	ケズリバナ	(小径木)	—	—	—	棒状	⑯【資料】山の神を祭る際、両側に石等で地面に打ち込む(1962年採集) ※棒状の木を、下から上に向かって2段に削りあげたもの/※⑬に図あり	—	⑬⑯	
重里 (串崎)	11・7	けずりばな	<椎>	—	—	2本1組	棒状	霜月7日ニハけずりばなを立テル。長サ1尺グラキノ椎ノ木ヲ、最初皮ヲ剥イデ、ソノアト何段ニモ全面的ニ削ッタモノ。コレヲ2本立テル。今デモヤッテイキル。男性ヲ象徴スル/ ※図あり	男根	⑫	

表1-5 紀伊山地における山の神のケズリバナ習俗3

35	十津川村	重里(椎平)	11・23 ※	ケズリバナ	<シイ>?	—	2本1組	棒状	お稲荷さんに合祀したため23日に祀る。2本1対で山のご神木のご神木の根元のウロ(女陰を象徴)の前に挿して供えた。ケズリバナは男性の象徴とも言われる。シイの木で削ったように思うが、記憶が曖昧。昭和30年頃から作っていない	男根	調
36		重里(重里)	11・7	ケズリバナ	<樫>サカキ	ナタ・セン※	2本1組	棒状	11月7日の祭日や、山で大きな仕事がある際に山の神に立て供える。削る刃物は何でもよい(今石調査)／【⑩資料】木の皮をむき鉈やセンを使い木の周囲を5段程に丸くすくへいだところを丸く曲げて仕上げ、下部は地面に差し込むように先を付けた。山の神を祭る際、両側に石等で地面に打ち込む(1983年採集)	カンザシ	⑩調
37		永井	11・7	けずりばな	—	—	2本1組	棒状	けずりばなハ3段ニ削リ、2本(1対)供ヘル(⑫) ※図あり／※⑤にも図あり	—	⑤⑫
38		玉垣内	11・7	けずりばな	ヒノキ	小刀	2本1組	棒状	霜月7日ニけずりばな2本ト小豆団子ヲ供ヘル(⑫)／イカダ棟を削る薄い刃物を用いて、ヒノキを削って花のようにした。山の神の祠の供えてから自家に持って帰り、庭に2本1対で立てて拜む。祭りのための花という認識だった(今石調査)	花	⑫調
39		西中(佐田番)	11・7	けずりかけ	—	—	—	—	※詳細不明(けずりかけハヨク見ルガ詳シイコトハ知らヌ)	—	⑫
40		小坪瀬	11・7	ケズリバナ	—	—	2本1組	棒状	大抵ノ家ニハ山の神の木トイフ大木ガアリ、ソノ根モトニ2段ニ削ツタ木ヲ2本立テ、さいれノ姿ト小豆団子7個ヲ供ヘル(⑫)／⑩【資料】※所見:下から上に向かって何段も削り上げる。頭部は三角に、下部は切りっぱなしにする／※⑤にも図あり	—	⑤⑫⑭
41			臨時	ケズリバナ	—	—	2本1組	—	山の神を最初にまつる時、ケズリバナを1対作り、供える	—	⑭
42		迫西川	11・7 ※	ケズリバナ・サカグシ・カザリバナ	ヒノキ・スギ	—	(2本1組)	棒状・平板状	当屋の人がサカグシ(カザリバナともいう)を1対ずつ作りダイジョーグンと山の神に供える。サカグシとは、5寸か6寸の木を上の方から削ったものである(⑭)／現在はダイジョウゴさんと合祀のため11月23日に祀る。当番の人が1本ずつ供える。男性のシンボルとも言う(今石調査)／【⑩資料】小径木を割って厚手の板を作り、頭部を三角形に削る。下方から上に向けて両側を幾重にも剥ぐ。剥いだものを上部に向けて丸みをつける。山の神を祭る際、両側に石等で地面に打ち込む(1962採集) ※形態は、今石調査では棒状のもののみ、⑩収蔵資料は平板状	男根	⑭⑯調
43			山仕事始	(削った木)	—	—	—	—	山の神ノ祭ハ…山仕事ヲ始メル時ニモ行フ。山小屋ノ傍ニ適当ナ場所ヲ選ビ、木ヲ2段ニ削ツタモノ(名称ハ知らズ)ヲ1本立テ、ソノ前ニさかきヲ立テル	—	⑫
44		出谷(小壁)	山祭 ※	ケズリバナ	—	—	2本1組	—	以前は山祭り(山仕事を始めるときの祭り)のときに作り、山小屋の棚に二本供えて拜んだという	—	⑮
45		大湯川(大桧曾)	11・7	けずりばな	—	—	—	—	けずりばなハ昔ハ作ッテ供ヘタ聞イテキル	—	⑫
46		大湯川(垣内地)	11・23 ※	ケズリバナ	ヒノキ	山鉈	2本1組	平板状	住吉神社に合祀したため23日に祀る。祭日以外に山仕事の始めや終わりにも供えた。2本作り、立てかけるように供えた。数十年前から作っていない	—	調
47		田戸	11・7	ケズリバナ	—	—	—	—	ケズリバナを供えることは知っているが、殆どやらぬ	—	⑩
48			臨時	ケズリバナ	—	—	—	—	山で小屋を建てる場合は…小屋の一部に山の神の棚を作り、毎朝カシキが炊いた御飯のハソ木をとりうけて供え、それから食事にかかる。職人は山の神の場を決めてケズリバナやチンボを供える	—	⑩
49	竹筒	11・7	キリサゲ	—	—	—	—	木を削ってキリサゲ(削掛)(但し実はゴヘイのこ)を作り、もとをV形に尖らせて刺して立てる	—	⑩	

<参考文献> ①保仙純剛「吉野杉をそだてる山村」『あしなな93』山村民俗の会1964 ②保仙純剛「山の神とそれまつる伝承と」『奈良県総合文化調査報告書』奈良県教育委員会1954 ③仲西政一郎「吉野の山の神」『あしなな120』山村民俗の会 1970 ④『上北山村の民俗と生物』上北山村役場1964 ⑤松崎憲三「山の神祭りにおける木製祭具の研究」『国立歴史民俗博物館研究報告7』1985 ⑥奥野義雄「祈願・祭祀習俗の文化史」岩田書院2000 ⑦『下北山村史』下北山村役場1973 ⑧保仙純剛「吉野方面の山の神」『伊勢民俗』1956 ⑨『天川村民俗資料緊急調査報告書1』奈良県教育委員会1975 ⑩林宏『十津川郷探訪録 民俗2』十津川村教育委員会1993 ⑪同前『民俗3』1994 ⑫同前『民俗1』1992 ⑬林宏『吉野の民俗誌』文化出版局1980 ⑭浦西 勉「紀伊半島中央山岳部吉野山地における山の神まつりの諸相」『奈良県立民俗博物館だより64』1993 調:今石2003年調査 ⑮『十津川』奈良県吉野郡十津川村役場1961 ⑯十津川村歴史民俗資料館収蔵資料 ⑰奈良民俗博物館収蔵品 調:今石2003年調査

表1-5 紀伊山地における山の神のケズリバナ習俗4

地域	祭日	名称	製作		組合せ	形状の特徴	用途		形状認識	文献
			材の樹種	製作道具			詳細			
和歌山県										
50	北山村 (字不明)	11・7	削花	ヒノキ	—	—	—	簡単な神棚を設けて大山神と記した削花に桧材で男根を形どったものを供え、一方、榊一對と御神酒・海魚・おはぎ・ぼたちなどを御供物とする	—	①
51	下尾井	1・7 11・7	削り花	ヒノキ	—	2本1組 魚を挟む	棒状	寺の上の山に少しく入った所に、杉の大木の下に「御山神」と彫った石碑があり、その前に杉丸太の鳥居がある…石製・木製の男根、檜の削り花等があげてある…削り花は山の神のカンザシだという…削り花は檜で二本造る。一方は三、一方は四と削り、合せて七になるようにした。一本は尾をさし、一本は頭をさす	カンザシ	②
52	大沼	節分	ケヅリ花	(割木)	—	※	(平板状?)	オニメツケ(ヒイラギ)とイワシを割木を削ってケヅリ花にしたのに挟んで門口にさす	—	②
53	小松	11・7	けずの花	—	—	—	—	小松では(四か所)、酒・ボタ餅・ケズリバナを供えて祭りを…ぼた餅とけずの花(ケズリバナ=山の神のカンザシだという)を供えて山の神を祭る	カンザシ	③
54	本宮町	三越 (奥番) 11・7 2・7	(男根)	ヒノキ	—	—	棒状	檜を使って径四寸、長さ七寸の男根を作り、その木の男根の中ほどに削り掛け状に削り羽根をたくさん削りこんだものを作って山の神の祠の前に供えた	男根	④
55	三越 (発心門)	11・7	ツクリバナ	ヒノキ	小刀	—	棒状	明治時代までは檜で作った男根を供えたが大正時代からは削り掛けのみを立てて供える。削り掛けは…頭部には男根を示す切りこみがある(③)／切り出し様の小刀で削り、1本を地面に挿して供える(今石調査)	男根	④調
56	大居 (下向)	山仕 事始	削り花	—	—	—	※	二月七日、十月七日が祭り。山仕事をするとき、木を削って削り花を作り、「大山の神」と書き、方角のよい所にまつ。山の神祭りには大きな男根を作って供える	—	⑤
57	久保野	11・7	ケズリバナ	ハゼ	ナイフ	2本1組	棒状	ムラで何人か、径五センチ、長さ四五センチほどの木の男根を作って山の神の前に立てた。また、ハゼの木で削り花を作ってこれも山の神の前に立てた(③)／祠の石の前に左右一本ずつ地面に挿してお供えする。男根は1977年に作ったもので以前はケズリバナのみ(今石調査)	—	④調
58	田代	11・7 ※	ケズリバナ	—	—	—	—	十一月七日にすし・餅・秋刀魚・洗米・ケズリバナ等を供える。古くは二月七日もお祭りしていた	—	⑤
59	皆地	11・7	削り花	—	—	2本1組	—	山の神には削り花を左右に並べて供えるし、山の神は女であるから男根をもお供えして祭るものという	—	⑤
60	武住	11・7	ケズリバナ	<樫>	—	—	—	山林業務に携わっている人たちは山の入口に山の神をまつり、十一月七日に樫の木でケズリバナを作って供え、この日一日ヒマチとする	—	⑤
61	大瀬	11・7	ケズリバナ ・キリバナ	<カシ>	小刀	2本1組	棒状	2本1対で山の神の祠の前に立てる。1本は3段、もう1本は4段の削りをつけ、三(身)四(除け)のまじないとした。ケズリバナの他に、杭を2本立てて頭部に切込みを入れ、魚を挟んだもの、小豆団子(白い餅と小豆餅ひとつずつ)、お神酒等を供えた	—	調
62	〃	11・7	オコゼの 魚(うお)	—	—	2本1組	—	オコゼの魚(うお)と称して削り花を一对供える。向かって左側に供えられる削り花がオコゼの尾で、右側のものが頭にあたるといわれる。頭の方は、花が二つで、上部から下開きと上開きの順でむかいあうように削る。尾の方は、花は四つで、下・上、下・上の順に開くように削られる	魚	⑥
63	太地町 (字不明)	山仕 事始	ケズリバナ	—	—	2本1組	平板状	山入りの日は、親方とか庄屋(現場責任者)が山の神を祀ります。なるべく立派な木を選んで、根元へ米と塩とジャコ(煮干し)を供えるとか、ていねいな人やったらケズリバナ(木をけずってこしらえたもの。御幣の相当する)をこしらえたりもしたな / ※図あり	—	⑦
64	大塔村	下川上 11・7 2・7	ケズリバナ	—	—	2本1組	棒状	山の神は女神だからと男根の形の木を、ケズリバナと共に供える風習がある	—	⑧
65	那智 勝浦町	※	11・7 (男根)	—	—	—	棒状	熊野川大雲取山系・地藏茶屋横の山の神様で林業組合で祀る。霜月7日と山始め(山での仕事始めて「山祭り」と呼ぶ)にお祭りをする。根元部分を削りかけた男根をお供えする。	男根	調

<参考文献> ①田中敬忠『紀州今昔』聚文堂1979 ②高谷重夫・吉川寿洋『和歌山県東牟婁郡北山村民俗調査報告』『近畿民俗72』近畿民俗学会1977 ③『北山村史 下』北山村史編纂委員会1987 ④野本寛一『熊野山海民俗考』人文書院1990 ⑤『熊野の民俗』近畿民俗学会1985 ⑥『熊野・本宮の民話』和歌山県民話の会1981 ⑦宇江敏勝『熊野川』新宿書房2007 ⑧杉中浩一郎『熊野中辺路 歴史と風土』熊野中辺路刊行会1993 調:今石2003年調査

表1-5 紀伊山地における山の神のケズリバナ習俗5

地域	祭日	名称	製作		組合せ	形状の特徴	用途		形状認識	文献	
			材の樹種	製作道具			詳細				
三重県											
66	熊野市	五郷町(湯谷)	1・7	ケズリバナ	—	—	—	平板状	一月六日の晩に、泊り山の小屋の柱に、木で作った「ケズリバナ」を立てボタモチを供えた ※①に写真あり	—	①②
67			臨時	ケズリバナ	スギ・ヒノキ	小刀	—	—	「トマリヤマ(泊山)」の際、小屋を建てるために立てた4本の柱のうち入口の1本に、杉や檜を小刀で削って作った「ケズリバナ」を打ちつける。するとそこへ山の神が訪れるといわれている		②
68		育生町・神川町	節分	鬼の目突	スギ・ヒノキ	—	魚を挟む	頭部切込	「鬼の目突」というものを作り戸袋や外壁、門口に差した。これは、秋刀魚や鰯の頭を杉や檜などを使って作ったケズリバナの先に割れ目をいれて挟む	—	③
69		神川町(花知)	1・7	(削り掛け)	ヒノキ	手斧	魚を挟む	頭部切込	6日に山の神の所へ行き、檜を手斧で削り、その先を丸めて、削り掛したものの頭に割目を入れ、魚の頭を差し込んだものを供えた	—	③
70		井戸(宇井)	毎月7日	タモテ・チンボ・オコジ等	—	—	2本1組	—	祭日は毎月7日で、この日当番に当たった者(輪番制)が、神酒、賽銭(各家から集める)等を持って行ってお供えをする。また木製の男根なども作って供えることもある。これは、「タモテ」、「チンボ」、「オコジ」などと呼ばれ…ケズリバナにしたもの、…性器そっくりにしたものなどの形がある ※大馬のものは写真あり	男根	④
71		井戸(大馬)	毎月7日	オコジ等	—	—	2本1組	平板状		男根	④

<参考文献>①『熊野市史 下』熊野市史編纂委員会1983 ②『紀伊熊野市の民俗13』熊野市教育委員会1982 ③『紀伊熊野市の民俗11』同前1983 ④『紀伊熊野市の民俗14』同前1982 調:今石2003年調査